



写真等無断転載禁止

千葉豪雨と谷津田について

ちば環境情報センター副代表 江東区 小田 信治

令和8年8月千葉豪雨*

2026年8月13日から14日にかけて千葉県を中心に線状降水帯が発生するなど、記録的な大雨となり、各地で大規模な浸水や土砂災害、河川の氾濫が発生しました。特に千葉市では半日で約348ミリという観測史上最大級の雨が降り、道路の冠水、車の水没、停電、交通網の混乱が相次ぎました。2026年8月26日時点で死者13人、行方不明者1人、負傷者46人と報告されています。会員の皆様で被害に遭われた方もいらっしゃるかと存じますが、お見舞い申し上げます。※：気象庁命名（2026年8月14日）

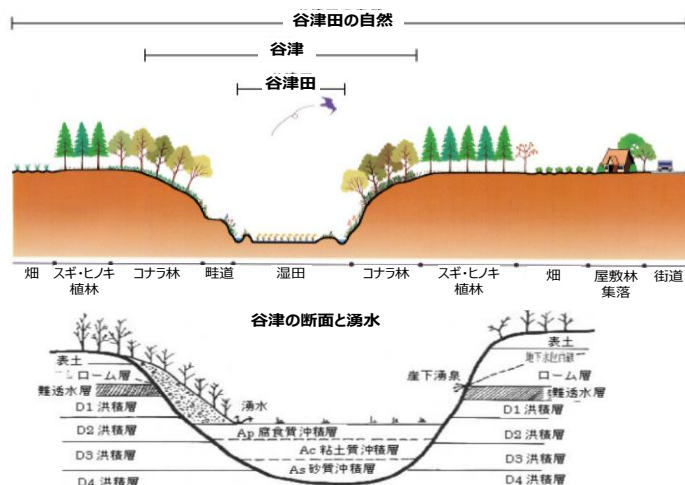
谷津地形は浸水被害の原因なのか？

テレビニュースで、水害に詳しい中央大学研究開発機構の山田正機構教授は、災害の原因として、千葉県北西部に広がる谷津地形「水がたまりやすい地形」にあるとの指摘がありました。山田教授は「谷津地形は勾配が緩く、川の勾配が緩いため水はけがいかない」などと解説されていました。また、こうした地形が千葉県以外にも存在すると指摘し「全国で似たようなことが起きる。起きたことを勉強し積極的に取り組んでいくことが大事」などと語っていました。私はこのニュースを見ていて、たいへん驚きました。浸水被害＝谷津地形との印象を視聴者が持ってしまったことです。確かに間違いではないですが、谷津のもつグリーンインフラやEco-DRR機能の説明がなく、一面的なコメントだと思いました。

谷津の防災機能

谷津は千葉の里山を特徴づける地形で、千葉の豊かな自然とふるさとの原風景を形成しています。水文学の面からは、山田教授の指摘のとおり「水が集まる地形」である一方、「水を受け止め、ゆっくり流し、地下へ浸透させ、下流への流出を遅らせる地形」でもあります。谷津の底面には水田（谷津田）があり、適切に管理された水田は、雨水を一時的に貯留する「ミニダム」のような機能を発揮し、下流への流出を遅らせ、洪水時のピーク流量を低減し、

地下水を涵養する機能があります。また、谷津には多くの生物が生育・生息しており、生物多様性が豊かな場所でもあり、グリーンインフラやEco-DRR機能を有しています。「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023」では市のグリーンインフラの構成を9つに分類し、谷津田・森林をグリーンインフラの一つとして位置づけ、防災を含む複数の効用を発揮する空間として捉えています。Eco-DRRとは、自然環境や生態系が持つ防災・減災機能を活用し、その保全・再生・持続的な管理を通じて災害リスクを低減する考え方です。湿地や水田、森林などが有する雨水の貯留・浸透、流出抑制、土壌保全などの機能がその一例です。



図一谷津田の自然

出典：千葉市谷津田の自然の保全施策指針

浸水被害の原因はどこに？

令和8年8月千葉豪雨による災害については、今後、様々な検証がされると思われますが、原因とされた谷津地形については、谷津が持つ本来の防災機能（キャパ）を超える豪雨があったことの他に、谷津自体の健全性や谷津が持つ防災機能が発揮できない原因についても検証が必要と考えます。近年、農家の高齢化等により休耕田や放棄水田が増えています。

水田として管理されていた水位調節や貯留機能が維持されなくなり、さらに、水路の維持管理が行われなくなることで、水の流れや貯留・排水機能が低下します。一方、谷津田が埋め立てられ、宅地や道路などに土地利用が転換されれば、雨水を一時的に貯留・浸透させる機能が失われ、不浸透面の増加によって雨水流出が増加します。さらに、谷津の低地部に立地した住宅等では、今回のような豪雨の際に浸水リスクが高まることも考えられます。

浸水被害＝谷津地形ではなく

今回の豪雨を教訓として、谷津を単に「水が集まり浸水しやすい場所」として捉えるのではなく、「水が集まるからこそ、その水を受け止め、貯留・浸透させ、流出を遅らせる自然の流域インフラ」として評価することが重要です。谷津田・湿地・森林などを生態系として保全することは、生物多様性の保全だけでなく、気候変動による豪雨災害への適応という観点からも重要です。

身近な森で見つかった特定外来生物・クビアカツヤカミキリ

我孫子市 為貝 和弘

7月31日の夕方、近くの森を観察していた際、特定外来生物に指定されているクビアカツヤカミキリの成虫を確認しました。

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラ、ウメ、モモ、スモモ、ナシなどのバラ科樹木の内部を食害し、被害が進むと樹木を枯らすことがある外来昆虫です。

千葉県内では、これまで確認例はありませんでしたが、令和6年（2024年）10月に柏市内でクビアカツヤカミキリによるものと疑われるフラスが確認され、その後、令和7年（2025年）1月にDNA分析によって県内初確認となりました。

さらに我孫子市でも、令和8年（2026年）6月に初めてフラスが確認され、東葛地域でも被害の広がりが心配される状況になっています。今回、我孫子市内の森で成虫を確認したことは、周辺地域での生息状況を把握するうえで重要な情報になると思います。

被害発見の手掛かりとなるのが、樹木の根元や幹に出る「フラス」です。これは幼虫が木の内部を食べた際に排出する木くずと糞が混ざったもので、大量に見



クビアカツヤカミキリ

られる場合は注意が必要です。確認後、我孫子市の担当部署および千葉県へ情報提供を行いました。

クビアカツヤカミキリは、単なる珍しい昆虫ではなく、地域のサクラや果樹に影響を及ぼす可能性のある生物です。一方で、早期発見と適切な対応によって被害拡大を抑えることができます。

身近な公園や森、街路樹などを観察する際には、成虫だけでなく、フラスや脱出孔にも注意していきたいと思います。

子どもが自然とゆたかにかわるために 大人がしなければならない事を考える その5 ～狩猟採集生活と農作生活をくらべる～

子どもと自然学会 船橋市 岩田 好宏

人間の歴史が大きく転換する節目になったといわれるものの一つとして「狩猟採集から農作へ」という食物源獲得のしかたについての変化がありますが、この言い方には賛成できません。「狩猟採集生活と農作生活の分化」と言い換えるべきであると考えます。それは、この場合の人間の生活のしかたの歴史的变化を多様化とみるだけでなく、野生生物世界の持続にとって重要な意味をもっていると考えからです。狩猟採集生活は、野生生物世界の持続を条件としてなりたち、野生生物世界が減びないようにするこ

とが必須の進め方だからです。

狩猟採集生活をしている人たちの食物源獲得がどうであるかということ具体的にみますと、ある場所で狩猟採集を進めている中で、食物源となる生物が少くなり、獲得量が減少しますと別の場所に移住します。これはアフリカゾウやヌーなど他の動物にもみられることです。するとそれまでの活動場所は放置され、人間の影響を受けなくなります。そしてそこに生存している生物は、それ自体の理だけに則し、人間の影響を受けることなく繁殖し、生育して全体の生体

量は増加し、もとの数量にもどります。そして狩猟採集している人たちにとっては食物源獲得が可能な場所へと回復します。

このようなことのちがいは狩猟採集にあたって、狩猟動物を例にしますと、これらの牙や鋭い爪などのからだにかかわって道具と頭脳だけです。

注:ただし道具は、自体のからだの一部ではなく自然の一部であることによって、道具としてより優れたものに変えることができ、そのことによって人間の自然力が変わることになりました。そしてそのことによって下の図4(岩田好宏 2008『人間らしさの起原と歴史』ベル出版刊を一部改変)のように動物世界の中でのヒトの位置が変化し続けることになりました。つまりヒトは、絶え間なく「生態的地位」を変えることができました。

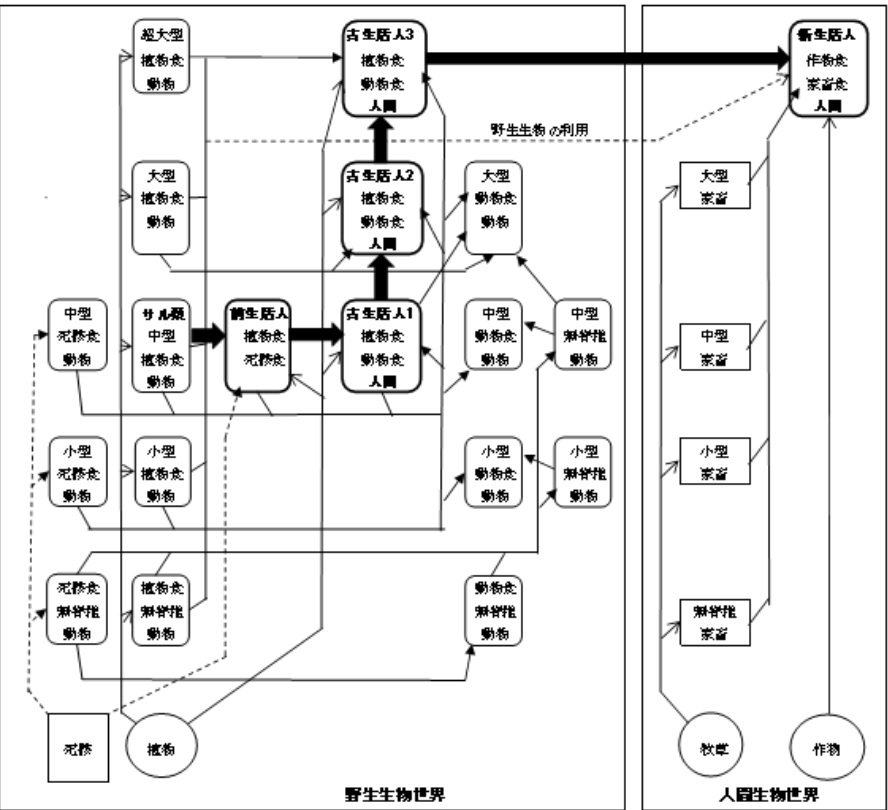


図4 人類の進化にともなう生物世界の中での位置(生態的地位)の変化

図の中の → は、サル類から人間へ、原生物から古生物へ、新生物へ
図の中の → は、サル類から人間へ、原生物から古生物へ、新生物へ
図の中の → は、サル類から人間へ、原生物から古生物へ、新生物へ

このような狩猟採集生活をしている人の行動のきっかけとなる内因は、空腹と睡眠だけではないかと思ひます。他の動物もそうでないかと思ひます。これ以外は獲物となる生物、外敵が近

くにいることや天候・季節変化などすべて外からの刺激だと思ひます。これに対して農作生活は、これまで述べてきましたように放置はもっとも重大な農作不可能の要因です。

田畑は、すでに述べましたように放置しますと植物生態学がいう「二次遷移」によって極相(野生生物世界)に向かって変化します。このことは、現実に農村域の放置された田畑などにみることができます。私自身も毎年晩夏観光で行きます長野県のある地域では、意図的なのかどうか分かりませんが、隣接した水田が数年間隔で放置され、ヨシ・ガマの湿生草原から高木に近い

数種のヤナギの林まで、いくつかの段階の植生がみられます。農作と狩猟採集では、「放置」という点ではまったく反対の効果がうまれます。

農作は、またはたらきかければすぐに成果があるというのではなく、収穫ができるようになるのはずっと後のことです。しかもその期間は、ただ待つだけでなく常に作物の生育の様子を見、状況によって異なったはたらきかけをしなければならぬというように、気持ちはいつも作物とその環境に向けられています。

このように狩猟採集と農作は、人間生存の基盤となっています食物獲得について大きなちがひがありますが、それは、人の他へのはたらきかけを「労働」と言って、重視されていますが、無関心、放置するということも、人間の存在のしかたの一つとして重視する必要がありますのではないのでしょうか。

農作は、やがて一人ひとりの人が、自分が必要なもの以上の収穫ができるようになり、社会の中に自身で農作をしなくても生きることができるようになる人が出現するようになります。

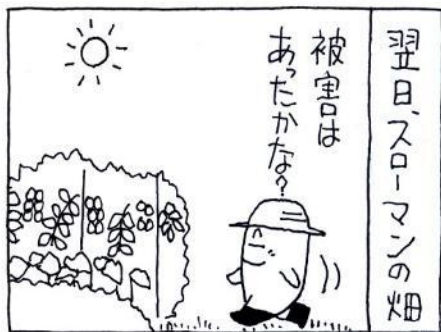
新浜の話 103 ～葛切りとレンタルヤギ～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

の水の生きものにとって望ましい、開けた水面や開けた泥地を確保しようという「草とのたたかい」が続けられてきました。

保護区本土部分については、1995年度と1996年度に行われた「行徳内陸性湿地再整備事業 第一期・第二期」で、半分近くが湿地となり、極相へ向かおうとする植生の遷移を食い止めて、水鳥やトンボ等

スロ-マン 作: 7月 千鳥橋側 65



破裂したミニトマトを即、収穫すべきでした。2日経ってやうと思ったら、腐っていました。ツムに適していたのに...
 <作者談>

一方で、「緩衝緑地」として設けられた周辺の幅20mの緑地部分については、1974年にクロマツ・シャリンバイ・トベラ・キョウチクトウ・マテバシイ・ウバメガシと6種類、太さ親指くらい、丈は50cmほどの苗木が列植されたのみで、管理通路部分の草刈りに業者さんが入ることもありました、これといった手入れは行われていませんでした。

南西側の行徳高校や塩浜学園に接した部分は、2001年に土日に管理人を置いて「みどりの国」として日中一般に公開されるようになりました。南東側、湾岸道路に面した延長1.2キロの最長部分では、1995年からカワウが繁殖を始め、数年でほとんど全体がコロニーになりました。

これもどういうきっかけで手をつけたか記憶にありません。「いきものマップ」のころ、SSCSの初代インターンでインターン期間を終えてからもアルバイトで来てくれた福永杏さん（現在は福島姓）といっしょに、千鳥橋側（北東側）の緑地にはびこる葛を切りに出たことがあります。樹木をほとんど覆いつくした部分が多くなって、これはまずいと考えたのだったか。

考えることと実際に手を動かしてやることは大違い。1m間隔で密植されたままの樹木は生長が悪く、ひょろひょろでしたが、20年以上も全く手を入れていなかったのも、木々の間に入り込むためには文字通りのほふく前進が必要。杏さんも私も小柄だったのでどうにかできたのですが、背の高い男性陣には苛酷な作業。学生時代の林学科で葛切りと言えば、造林中の若木にからむ葛を鎌で切る作業のこと。しかし30年近く放置した葛の根元は腕くらいもの太さになり、木のように固くごつごつして、鎌や剪定鋏などとても刃が立ちません。手鋸でひたすらごりごり。「この根を掘ったらいくず粉がとれるのにね」もともと、テレビで見た吉野葛の製造工程は、根を掘って削ればよい、というような簡単なものではありませんでした。

翌シーズンも葛切りに出向いた杏さんのことばでは「ちょろい！あんまりやりがいなかったですね」それでも葛もがんばって、10年近く後のこと、道路を隔てたお向かいの興和ガラスの工場から、大量のマルカメムシが飛んできて梱包に紛れ込んでしまうので何とかしてくれ、と苦情が入り、マルカメムシの食草となる葛の駆除のため、切った茎に除草剤を塗ってもらったこともありました。

ひと夏でしたが、レンタルヤギを利用して見たことも。お借りした2頭の白ヤギさんは、かわいい連中でした。毎日様子を見に行っていましたが、一度など、緑地を形作る高さ2mをこす堤防から落ちてしまって、大騒ぎで助け上げる始末。ただ、当たり前のことですが、ヤギさんたちの好みの草と、人間が食べて欲しい草との種類が一致するわけではありません。保護区管理のための草とのたたかいは、人力によるしかないね、というのが結論でした。

はびこっていた葛は、カワウのコロニーが千鳥橋側に拡大して行く中で勢力を弱めて、マルカメムシも問題にならなくなりました。今年はカワウの繁殖拡大を防ぐため、卵のある巣にドライアイスをかけてふ化を防ぐという方策がとられているそうです。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年10月号（第350号）の発送を10月 7日（水）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

..... あなたも入会しませんか

住所〒
 ふりがな
 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____

編集後記: 9月13日～14日にかけて千葉県を襲った千葉豪雨。下和田にも田んぼが水没するほどの雨が降りました。ニュースでは谷津田のせいで洪水が発生したというような報道もありましたが、実際には谷津田と森の保水力によって、下流部の水害を軽減したことは明らかです。生物多様性を育む場であるとともに、その洪水調節機能が再評価される時ではないでしょうか。 mud-skipper

参加者6名（大人6名） 報告：江澤芳恵

☆臨時 小山町 YPP「イネカメムシの駆除」 8月30日(日) くもり

急に出現したイネカメムシを駆除しました。昨年、イネが実らない原因となったイネカメムシ、今年は発生しないのかなと思っていたのですが、突然現れて出穂している稲に集まっており、虫取り網で捕まえてペットボトルに集めるといふ地道な方法で1匹ずつ捕獲しました。総数はたぶん150匹くらい。ペットボトルがパクチーのような臭いでいっぱいになりました。どれくらい効果があるかわかりませんが、出穂中やこれから穂を出す稲のためになんとか数を減らしたいと思います。 参加者6名(大人6名) 報告：高山邦明

【谷津田・季節のたより】 2026年 8月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

8/2 田んぼの畦でキイトトンボ飛ぶ。森の中ではオオシオカラトンボ♀がハゴロモの仲間をつかまえてムシャムシャ食べていた。コクワガタ♂1匹とノコギリクワガタ♀1匹が落ちていた。

8/22 セミの大合唱、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクホウシも。帰る頃にヒグラシの鳴き声も。すべてのセミが出そろった。森の中でカトリヤンマを見かけた。警戒心が強く近寄らせてくれなかった。足元からキジのメスカ幼鳥が飛び立ち、驚かされた。アカメヤナギの下で大きな見かけぬクモ。あとで南方系のスズミグモであることが判明した。

8/29 古代米の緑米が出穂。稲は順調に育っている。ガマの穂が実った。田んぼでちょっと珍しいコガタコガネグモが巣を張っていた。22日に見たスズミグモの姿はなく、巣があるばかりだった。

＜小山町＞ 報告：高山邦明

草花の開花：8/1 ヨウシュヤマゴボウ、イヌタデ 8/7 ミソハギ 8/10 イノコヅチ 8/15 ガガイモ 8/20 赤米 8/24 ヤブマオ、ノダケ、チヂミザサ、アキカラマツ、ツリガネニンジン 8/26 ツルボ 8/27 ゲンノショウコ 8/29 センニンソウ 8/31 緑米、アゼナ

観察記録：8/7 タマムシが飛んでいた。

8/10 夏鳥のホトトギスのさえずり(今季終認)。

8/18 夏鳥のオオヨシキリの地鳴き(今季終認)。

8/24 ヒヨドリの声が急に少なくなる、色づいたマイコアカネを見る、エンマコオロギの声を聞く、田んぼにイナゴが急増

8/25 イネカメムシが急に増える、ヒバカリを見る。

8/29 濃い赤に色づいたノシメトンボを見かける。

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

＜下大和田谷津田＞ 連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

・森と水辺の手入れ

日 時：2026年 9月20日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：稲刈り前の田んぼに鳥よけテープを張ります。また観察路の整備を行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・森の手入れ

日 時：2026年 9月27日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：森の木の整備や下草刈りを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第321回 観察会とゴミ拾い

日 時：2026年10月 4日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内 容：トンボの調査も兼ねて秋の森と谷津田を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100円

＜小山町谷津田＞

▼第249回 小山町 YPP「稲刈り①」 はたはったんや黒米の稲刈りをします。

日 時：2026年 9月21日(月・祝) 9時～12時 ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物：長靴(できれば長めの田んぼ用)・軍手・飲み物

☆どなたでもお気軽に参加いただけます。初参加も歓迎です！参加のご希望、お問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.com までメールでご連絡下さい。

